

企画事業「青少年を対象とした事業」

「クリーンアップ全国青年富士登山」

平成 22 年 8 月 23 日（月）～8 月 25 日（水）

（2泊3日）



I 事業の背景

国立中央青少年交流の家の設立 50 周年を記念して、世界から注目される富士山を若者が主体的に清掃活動を行うことで、世界遺産への登録をアピールする。

II 事業の概要

1 趣 旨

全国の青少年が「富士のさと・中央青少年交流の家」に集い、共同生活を送りながら、富士山の全ての登山ルート登山口での清掃登山を行うことにより、異世代間・地域間交流を図るとともに、環境保全についての理解と関心を深め、意欲を増進させる。また、本事業を関係機関や広く国民に周知することにより、富士山の世界遺産登録への啓発の一助とする。

2 参加対象

14 歳（中学 2 年生以上）～概ね 30 歳まで 100 名

※中学生については御殿場市教育委員会を通じて募集を行う。

3 参加状況

参加者合計 99 名（男 40 名・女 59 名、外国人ボランティア 9 名）

4 企画のポイント

環境問題に関心のある学生をターゲットに富士山国際エコキャンプ村「全国 NO!ごみプロジェクト」（国立中央青少年交流の家全拠点で NO!ごみ活動を実施）の総集編として「富士山全ルート清掃富士登山」を実施した。

III 事業ノウハウ

1 広報ノウハウ 「富士登山+環境問題解決=若者」

本事業の特徴は何よりも若者からの申込みが非常に多い。大学生ばかりでなく高校生からの申込みも多く見られる。その理由はいま若者たちが「環境」に高い関心を持っていることである。きっと本事業が「富士登山」のみであったら参加申込みはそう多くはないと思われる。「富士登山」に「ごみ清掃活動」が組み合わせられていることが多くの関心を生んだ要因と思われる。

2 事業ノウハウ 「失敗！あいまいな表現が生んだ弊害」

今回は富士登山。各参加者には詳細な持ちもの案内を送付した。靴については以下のように掲載した。◎トレッキングシューズ（岩が多いため底の厚いものが必要です）しかし、当日、参加者のなかにはスニーカーなどが見受けられてしまう状態であった。情報は受け手の取りやすい方にとられている。やはり登山の要である用品については「このようなものは持参」と「このようなものは×」という両方のより具体的な情報を伝えることが重要である。

＜参加者の感想等＞

- ・ 今回、ごみ拾いをしながら登山するという経験ができて良かったです。とても満足しました。企画に参加して改めて清掃活動に興味をもち、もっと多くのひとに参加してほしいと思いました。
- ・ 登山道より山頂付近に沢山ごみがあった。山頂でもごみを拾う時間が設定できれば良かった。
- ・ 楽しかった、辛かった、その両方を知れて良かった。学習会でのみんなの発表が良かった。
- ・ 富士登山を経験して、自分の今までの考え方がガラッと変わったし、富士山を初めとするごみ問題に関心を持ってました。世界にも目を向けなければならないと思いました。

5 実施状況・参加者の様子



【富士登山道での清掃活動】



【両手いっぱいのごみ袋】



【登山の苦しさを仲間とわかちあう】



【拾ったごみを分別する】

Ⅲ 成果と課題

1 成果

国内外からの学生ボランティア99名が参加した。この内、中国人留学生の参加も10名あり、富士山のごみ問題に対する関心の高さを改めて感じた。また、清掃活動のなかで若者達が過酷な条件のなかでのごみ清掃活動は多くの登山者の共感を呼び、PRに大きな成果をあげた。

2 今後の課題

国内最高峰の富士山。登山に対する危険度も非常に高い。ごみ清掃登山は登山に対する気軽さを参加者に印象づけてしまう傾向がある。この点からも十分なリスクマネジメントが引き続き大きな課題である。